

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/1階)

事業所番号	2770105464		
法人名	アンドライフサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北花田		
所在地	大阪府堺市北区新堀町2丁119		
自己評価作成日	令和5年10月25日	評価結果市町村受理日	令和5年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節の行事、施設で考えたお店屋さんやミニ運動会・みかん狩り・手芸クラブ・花火大会の他地域の協力もあり、布団太鼓など地域行事への参加も力を入れ、今までと変わらない生活を継続出来る様過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームが開設された頃は認知症についての理解がなかったため近隣住民の反対があったが、現在は少しずつ関係性もでき自治会に加入し、回覧板も回ってくるようになった。登校する子供に声を掛けたり、コロナ禍で制限のあった外出も少しずつ緩和され地域の活動も再開されてきた。当事業所は3ユニットで玄関は施錠しているが各フロアは自由に行き来ができるようになっており、広さもあるので全体にゆったりとした雰囲気がある。事業所では一対一企画でその日は利用者の思いが実現できるよう職員と利用者が一対一で銭湯に行ったり、飛行場に飛行機を見に行くなど理念の通り「ゆっくり穏やかに笑顔ある暮らし」が実現できるよう支援している。評価機関から家族に行ったアンケートでは事務的では無く家族のように親切で細やかな対応をしてくれるとの意見が多数寄せられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【本評価結果は、3ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果 1階 【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心・家族へ穏やかな暮らし」 理念にもとづき、生活できるよう支援・実践している。	開設当初は法人代表の思い「安心家族」を理念としていたが、職員皆で話し合い「ゆっくり穏やかに笑顔ある暮らし」という文言を追加したいとの意見があり現在は二つを合わせた理念としている。各フロア、事務所、エレベーターホールに掲示し毎月会議の時に共有し実践できているかどうかを評価している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等の際の挨拶、回覧板を持って行くなどの交流を行っている。	自治会に加入し回覧板から地域の情報を得ている。利用者と一緒に事業所前の道路を清掃しながら登校する子供たちに声を掛けたり、近所のスーパーの買い物、神社への散歩を行っている。自治会の災害時に無事を知らせる「無事ですボード」を掲示する訓練に参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板を持って行ったり、近隣への散歩で挨拶をしたり、布団太鼓に来ていただいたりなどの交流を行っているが、コロナ感染症以降、積極的な交流は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの利用者の様子や行事の報告、地域の方からのご意見を伺い、今後の参考にしながら、サービスの向上に活かしている。	偶数月の第3水曜日15時半から運営推進会議を開催している。地域包括支援センター、自治会、地域住民、近隣のグループホームの管理者が参加して運営について話し合っている。同業者の参加がありお互いにどのような運営をしているのかを聞くことができるのでサービス向上に繋げている。議事録は家族に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査などの申請を行ったり、日程調整、認定調査の立ち合いを行い情報提供している。	介護保険の更新やグループホーム連絡会に参加している。区で開催された認知症フェアにパネル展示をしたり利用者が作った作品を出品した。無理な要望を言う家族とのトラブル回避のために役所に相談することや、後見人制度について地域包括支援センターで説明を受けたりして協力関係ができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	大きな道路が近い為、利用者さんの安全の確保の為、ご家族了解の基玄関の施錠を行っている。 フロアごとの入り口は解放しており、利用者はホーム内を自由に行き来できる。	身体拘束適正化委員会と来年度から開催が必須になる虐待委員会を拘束虐待委員会として同日に会議を行っている。玄関の鍵は施錠しているが各階のフロアは鍵が無く自由に行き来できる。3ヶ月ごとに会議を開催し研修を行っている。職員のストレスを貯めないよう管理者は定期的に職員と個別に面談し話す機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束虐待委員会を開催し、ホーム内での様子や事例の検討を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人や家族の様子を見ながら必要に応じた支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、もしくはその後も、不安や疑問に対しては、説明対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱の設置を行い、面会時には直接、家族の意見、要望を伺っている。 利用者とは、日常の関わりや会話の中で意見や要望を伺い、反映させるよう心掛けている。	各階の玄関前に意見箱を設置し、年1回家族アンケートを実施している。毎月の便りや状態に変化があった時の連絡、訪問時にはコミュニケーションを取ることを心がけ家族からの意見が得やすい環境は整えている。意見や要望で改善できることは直ぐに対処するが、新型コロナウイルスが感染拡大している時に面会したいという要望はあったが直ぐには対応できず、現在時期を見ながら少しずつ緩和させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回、やりたい行事、目標等のアンケートを行い、意見を反映させながらみんなで楽しく生活できるようにしている。 管理者・職員が面談できる機会を設けている。	毎月フロア毎に職員会議を開催したり、朝の申し送り時や事業所内でのグループラインを利用して利用者のケアについての意見、要望を聞いている。風呂場をリフォームする時、職員から浴槽が跨げなくなっても湯船に浸かれるようリフト浴の導入の提案があり各階に設置するなど代表者、管理者は意見や提案を運営に反映させている。	新型コロナウイルスが感染し職員同士の交流の機会が減った。職員の入れ替わりもあり、同じフロアの職員同士は知っているが、他のフロアの職員の事は知らないこともある。今までの事例で職員の意見が運営に反映はされているが、事業所全体で職員同士の関係性を深めることでさらなる発展を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	皆が笑顔で働ける環境作りを大切にしている。得意なことをのびし、皆でフォローし合えるよう声掛け、指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の様子、得意、不得意を見分けながら対応や実践の声掛け、指導を行っている。研修や実際に起きているフロア内での事例と一緒に考えより良いものにできるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ流行前には研修などを通し、意見交換出来ることも多かったが、今は行っていない。ホーム内での研修、各フロアの様子を申し送りで聞くことで考える機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の様子を知り、話をする機会気付きをたくさん増やせるようにしている。 そばに座り一緒にいる安心感を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会、LINE等を利用し、できるだけたくさん様子を伝え、お互いに情報を共有しながら、皆が安心できる生活が出来るよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞きながら、一緒に考え、安心できる支援ができるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	たくさん話をし、関わることでその人自身を知り、得意や自信を大切に出来るよう一緒に考え笑顔で過ごせる毎日を考え、生活支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	昔や、ホームに入るまでの生活、性格の情報をしっかり聞き、本人様らしい生活が継続出来るよう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人等、面会や電話等の手段を通じて関係が途切れることがないよう支援している。	家族や友人との電話や手紙のやり取りの支援をしたり、墓参りに行きたい、昔よく買い物をした百貨店で買い物がしたいという要望に職員は利用者と一緒に馴染みの場所に出かける。徐々に薄れていく記憶が一瞬でも繋がるよう事業所では馴染みの場所に行ったり今までしていた趣味や好きなことが継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志が楽しく過ごせるように職員も一緒に会話を楽しみ、楽しい時間が過ごせるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所してからも来訪し、昔話をしたり、新たな相談に対しても支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを受け止め困難なく暮らせる様に支援する。	事業所では一対一企画としてその日一日は利用者の要望を実現しようという取り組みがあり、温泉に入りたい、家に帰ってから散歩に行きたい、百貨店で帽子を買いたいと言う利用者の思いを実現した。自分で思いや要望の言えない利用者には二者択一で選んでもらい、いつも選んでいる傾向を把握したり、日頃の会話や表情から推察し思いの実現に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を把握し家族より情報を得る。 本人よりもお話をする中で情報把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり日々生活の中で体調管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員間で意見を出し合い快適に暮らせることができる様介護計画を作成している。	居室担当制にして職員は担当の利用者の状態を観察し、皆で情報を共有している。介護計画は作成後定期的に見直され、必要に応じて現状に沿った計画に変更される。利用者、家族、医師、看護師や職員の意見を参考にして穏やかで自分のできることが継続してできるよう話し合われる。事業所で看取りを行う時には毎週計画の見直しを行う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人の日々の様子支援の実践を記入し職員間の情報をもとに記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のことを良く把握し、家族からも情報を把握し十分な支援に努める。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとり暮らししていくうえで、地域資源を大切に安心で楽しく暮らせる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族のご要望に応える医療を適切に支援している。 事業所と医療は密に連絡を取っている。	現在は協力医の訪問診療(月2回)を受けている人がほとんどだが、従来からのかかりつけ医に家族同行で通院している人は2~3例ある。その場合は事業所は医療的な近況報告書を用意している。また特に必要な場合は事業所も同行することがある。精神科、歯科、マッサージ訪問もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携を行い、週1回健康管理にきている。異常がないか観察を行い、転倒など処置があれば都度指示、対応頂け、24時間ナースコール対応を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院前の情報提供を行い、入院後も定期的に状態確認を行っている。退院時には病院での様子を確認し、帰所時の情報交換含め状況共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族が来た場合は部屋で面会されたりされています。本人どうして欲しいか、安心して頂ける様な方針で努めている。本人の意志を尊重しながら早めに家族とも相談をし、主治医交えて話し愛を重ねている。	重度化した場合のことは入所時に説明し同意をとっている。実際にその時が来たら、医師、家族、事業所とで会議をし、看取り介護を希望した場合は看取り指針を説明し同意を得たうえで看取り介護に入る。看取りの経験は多数あり、現在も2例進行中である	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に応じて研修を行い、都度確認出来る様にしている。特に夜間は1人なので、適時責任者へ報告して指示を仰げるようにしている。状態に応じて訪看との連携を取り、対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の利用者含む全員参加の消防訓練があり、消防署との電話対応や利用者を避難させる、消火器の使い方等練習している。常にマニュアルを見て復習出来る様にしている。	今年度は6月10日に実施した。近隣の人にあらかじめ知らせ、非常ベルを鳴らして全員参加(原則)で避難訓練を行った。特に夜間の困難を重視し2回とも夜間を想定し、独自で黄色い旗を使ったわかりやすいシステムを考え訓練している。オーナーの会社が隣接しているので協力が得られる。BCPは作成中、備蓄管理もその中で準備中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が嫌な思いをしない様、何度同じ事を聞かれても丁寧に答える様心掛けて対応している。状況に応じてこちらから優しく声掛けをしている。	利用者、ひとり一人の生活歴、好きなこと、嫌いなこと、などを知り、その人にあった対応をすることが、人権を尊重することにつながるとらえている。数年前から利用者ごとの対応について電子的情報管理にも取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見を一番に聞いている。不安な訴えがあれば傾聴を。自分から話してこない人には、こちらから「大丈夫ですか？」など声掛けをする。嫌な事は無理時しないようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の過ごしたいようにして頂いている。。その中でも一緒に作業をしたり、散歩や買物と一緒に行く等行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時一緒にタンスまで行き、どの服を着るか一緒に選んでいます。 起床時には櫛で髪をとかしたり髭剃りの必要な方は鏡を見ながら剃ってもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段はお茶入れや盛付け等個々の出来る事をして頂いています。定期的に調理の日が設けられており、その日は食材を切ったり、焼いたり分担しながら一緒に料理します。 片付けや皿洗い、食器を拭く、お盆を拭くなど分担しながら一緒に行っています。	通常は昼、夜は給食会社からのクックチルを使用し週1回くらい独自の調理の日を設けている。職員も一緒に同じものを食べている。 誕生日は本人の好きなものを聞いて、調理したり、出前を取ったり、テイクアウトしたりでフロアみんなでお祝いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量を記入しているので少食の人はおかずを少なくしたり調整しています。栄養が足りない人は主治医処方による栄養剤など飲んで頂いています。食事以外の時間もお茶等提供し、声かけをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、朝起きた時と食事後職員が見守り、入れ歯を外して歯磨き、口をゆすいでもらう作業を理解できるように促します。自分で出来ない方は毎食後、職員が歯ブラシ・スポンジブラシを介助させて頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の行動を知り、ソワソワした際は排泄の誘導をしています。自分で動けない方も座れる力がある方はその方の時間を知り、トイレに座って頂きく事で、排泄に繋がっています。	布パンツの着用を基本としており、必要な部分だけお手伝いするよう配慮されている。車いすの場合も使い慣れた居室のトイレを利用する人もあり、それへの対応も行っている。夜間だけリハビリパンツ等を使う人もあり、個々に合う支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナや牛乳などを提供したり、飲み物にオリゴ糖を入れて排便を促しています。それでも出なければウォシュレットをしたりお腹を撫でたりして排便を促しています。何日も出なければ、主治医処方の下剤等を調整して服薬して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は決まっていますが、その方の入りたい時間帯を把握し、個々に合わせて入浴して頂いています。入浴中も無理なく浸かって頂けるよう急がせずゆっくり入浴頂いています。	2年前各階ともリフトチェアを導入した。その結果浴槽がまたげなくてシャワー浴になっていた人も入浴ができるようになり喜ばれたばかりでなく、褥瘡が改善したとのこと。入浴拒否の強い人が家族とスーパー銭湯に行ったり、毎日夕食後の入浴希望に応じている例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力的にしんどい方は定期的に休息をして頂きご飯の時間など声掛けで起きてもらっています。 夜間はパジャマに着替えて寝てもらい、不安等で起きていたりベッドに座っている方が居たら話を聞き、安心して寝れるよう務めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	水と薬を持っていき、飲むように促します。飲み込む迄待ち、再度確認します。自力で飲めない人は飲みやすいよう水で練る等準備をして介助します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の好みや出来る事を基に、一緒にたくさんゲームをしたり、作品を作ったり、手芸クラブしたりします。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行ったり、天気の良い日は散歩したりします。 あるいは近くの神社へお参りに行き、気分転換をしています。	毎日外に出たい人は2~3人で近所の散歩をしている。それ以外の人でも週1回以上は散歩に出かけている。元利用者の農園があり退居した現在も招待してくれてミカン狩りや大根、サツマイモ堀りに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける時には、お店で自分でお金を払って頂ける様支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと言われたら介助にてかけて頂きます。電話の前後は必ず介助の者が出て確認しています。家族よりかかってきた電話をつなぐこともあります。また、携帯電話を使用している利用者もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気に努め、気持ちよく過ごして頂ける様清潔を保っています。カーテンや照明を活用して明るさを調整し、季節感ある壁飾りや花等工夫し、季節感を取り入れながら過ごしやすい環境づくりを行っています。	全体にスペースに余裕がありゆったりとしている。エレベーターホールには過去の作品展にだされた、いろいろの作品が展示されている。観葉植物が置かれ金魚やメダカもいる。リビングは明るく、テレビ前にはソファが置かれている。また、個室に行く廊下にもソファが置かれており、小休止などに活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きさの異なるソファやイス等を至る方向に設置し、いつもと違うイスに座ってお話ができるように配置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の持ち物、好きな物を置いたり、使い慣れた物を置く事で自分の家と同じような環境に近づけるように工夫しています。	居室はトイレと流し台がついて奥に6畳の広さがあるワンルームマンション風のつくりで、畳の部屋とフローリングの部屋がある。ベッド、クローゼットがついていてあとはタンス、テーブル、仏壇などを持ち込み、中にはエアロバイクを置いている人もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの安全な環境づくりとして、イスや机が歩くのにじゃまにならない様に配置し自立した生活が送れるようにしています。		